

物流事業者としての検討状況

■ Lv4自動運転トラックについて

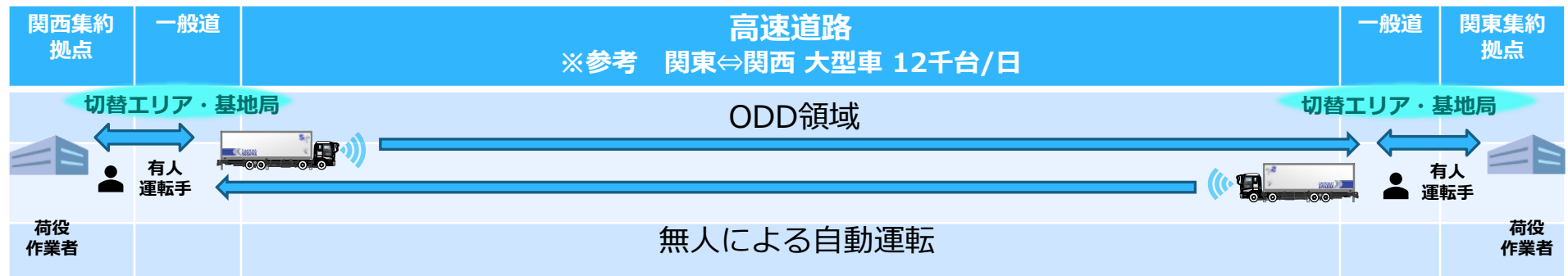
ODD
目標設定
※運行設計領域

初期ルート
・
拠点設定

自動運転
最適活用の
オペレーション
設定

【実現イメージ】

関東⇄関西の物流拠点間の**幹線輸送を初期の対象**として段階的に全国へ拡大させていく。
高速直結の物流拠点は限定的の為、**初期は高速SA/PAやIC最寄りに「切替エリア・基地局」**が建設され、**有人/無人の自動運転を切り替えて拠点間を繋ぐオペレーション**を想定。



【実現に向けた課題】

- 最終ゴール（規模感）を想定したインフラ整備（道路・切替、中継施設・遠隔支援etc）
- 足並みを揃えた環境整備、法制度
- 車両開発、物流事業者が手の届く車両価格帯

物流事業者としての検討状況

■ ドローン航路整備について

**官民連携での
航路整備**

(共用・ドローン
ポート・電波環境)

法整備

・
**1対複数機体
同時運航**

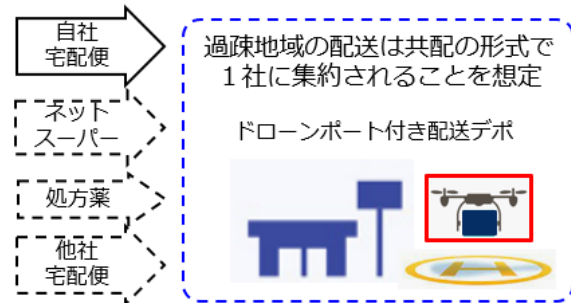
**ドローンポート
を備えた集会所
(公民館)**

【実現イメージ】

平時は物流で使用し、**発災時**には現場の情報収集～**緊急物資輸送**に至る**地域密着型の利活用**を想定

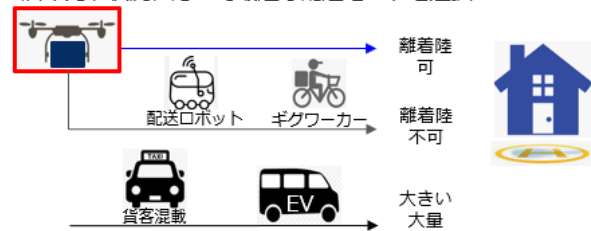
■ 実用化（利活用）イメージ

人口減少に伴う配送効率の低下、労働力不足の課題解決の為、
共同配送+他の輸送モードとの組み合わせが有効と考える



【平時】

■ 届け先や状況に応じて最適な配送モードを選択



< 1対複数機同時飛行 >



< ドローンポートを兼ねた集会所 (公民館) >



【発災時】

■ 孤立集落などへの緊急物資輸送支援



【実現に向けた課題】

- 飛行申請の煩雑さ
- 事業申請に伴う法整備
- 1対複数機体同時運航 (経済性・効率性)
- マルチ機能の集会所 (公民館)
 - ・ 避難所、備蓄品倉庫拠点